

C-4 衣服における色彩嗜好の実態調査

昭和女大文家政

鈴木キミ子

佐成 郁子

○川口 洋子

伊東 順子

1. 最近における衣服の色は非常に豊富になり、われわれの衣服生活に大きな影響を与えるようになった。このような時点において色彩嗜好の実態を知り、衣服の選択ならびに製作指導に資する目的をもって本調査を実施

した。

2. 被対象者は18～39歳までの全国各地における職業をもつ婦人とし、有効回答数1626通につき、年齢、未・既婚、性格、体格、居住地の環境などの項目を設定し、色相・明度・彩度に対する嗜好との関係を集計・分析した。

3. 色相においては一般に青が最も多く好まれ、次に赤紫・緑青・青緑の順であった。年齢については差がみられ、未・既婚については差がなかった。性格については明確に差がみられ、体格・居住地の環境についてはあまり大きな差がなかった。明度については、全体に高いものが好まれ、彩度にははっきりした傾向が認められなかった。色相において嫌いな色は一般に紫が多く橙・青紫・黄緑の順であった。